

姉妹都市での素敵な時間

下吉田中学校 小宮 帆七海

私がコロラド州へ行く前は、ホストファミリーの方々と会話出来るかが最も心配でした。他にも長時間飛行機に乗っていることや、時差で疲れないか等、不安なことはたくさんありました。

しかし、長い時間バスにゆられて、成田空港まで来てみると、なんだかワクワクしてきました。そうして一時間遅れの飛行機に乗り、やっとのことデンバー国際空港へ来たときは、再び一日をやり直すような感覚にとっても疲れを覚えました。だけど、富士吉田とは全く違う広大な景色は素敵で、今でも鮮明に思い出せます。一日の時間が増えて疲れているはずなのに、吸収するものが多くてとても新鮮に感じる一日でした。

アメリカはあらゆるものが日本と比べるとビッグサイズで、ホテルの部屋も例外ではありません。ふかふかの真っ白なベッドは、たくさん冒険した体を充分休ませてくれました。デンバーは都会というだけあって夜景が美しく、夜でも気分が盛り上がりました。

そうしてデンバーでは買い物やレストランでの食事、水族館に行く事等観光を楽しみましたが、どれも非日常的で夢のようでした。

やがてホームステイ当日、各ホストファミリーの皆さんが看板を持って出迎えてくれていた時、看板に自分の名前が書かれているのを発見した瞬間、緊張が一気に押し寄せて来ました。バスから降りて自己紹介を終え、私達のホストファミリーと対面した時は、お母さんやその子供達のオードリーちゃんやコナー君が気をつかって荷物を持ってくれたり色々と話しかけてくれたことに心があたたかくなりました。二歳のフィオーナちゃんもおしゃべりな子で、とてもかわいらしかったです。

そうして私がホームステイしたお家では、映画を観たりバドミントンを楽しんだり、アメリカでの日常生活を送っていきました。なかでもショッピングをする機会が多く、たくさんのお土産が買えました。わざわざ遠い所まで連れていってくれて、コロラドの景色を楽しみつつ、日本とは違ったレトロなお店に立ち寄りました。

そういえば、他のホストファミリーも一緒にレストランで外食をした時、誕生日を祝う歌が聞こえてきました。すると、私は八月が誕生日なのですが、サプライズということで皆さんが私を祝ってくれました。コロラドに來たばかりの私をさっそく歓迎してくれる姿に、とても感動しました。

また、私達が過ごしたお家の部屋はとても広く、居心地が良かったです。私達の寝室には歓迎のお菓子が置いてあり、そこに添えられたあたたかいメッセージに私達は嬉しくなりました。食事もお母さんの手の込んだ料理ばかりで、チーズ嫌いな私もチーズ料理を美味しく頂くことが出来ました。

さらに、アメリカの文化を知ってほしいということで、ハロウィンパーティーも行いました。仮装して色んなお家を訪ねていくのは本格的で、興味深かったです。かごにお菓子をためていき、終いにはお菓子の山ができました。一人では食べきれないほどです。

こうやっていくつもの思い出を作り、コロラドでの生活も思えばあっという間でした。ホストファミリーの元を離れてバスに乗る際は友達と号泣しました。でも、いつかまた来ると約束したので、次があると思うと希望が持てました。また、気のせいかもしれないけど空港から富士吉田へ着くまでが意外と早く感じ、思い出をさらに一瞬のものへと変えました。

私はこの機会で作られた友情や思い出を一生のうちの素敵な時間として絶対に忘れず、この経験を将来にいつか活かしていきたいと思いました。